令和６年２月 29 日

文教厚生常任委員会
　委員長　綾城　美佳　様

文教厚生常任委員　ひさなが　信也

文教厚生常任委員会行政視察報告書

下記の日程で行政視察を実施しましたので、別紙のとおり報告します。

記

1. 視察期日及び視察先
　令和６年２月５日（月）
　　愛知県　蟹江町
　　「文化財保存活用地域計画について」

　令和６年２月６日（火）
　　愛知県　小牧市
　　「窓口サービスについて」

2. 視察参加名簿

委員長	綾城　美佳
副委員長	米弥　又由
委員	林　　哲也
委員	岩藤　睦子
委員	中平　裕二
委員	上田　啓二
委員	江原　健二
委員	ひさなが　信也

以上８名

3. 視察報告・所感　別紙

(別紙)

視察先	愛知県　蟹江町			
視察日時	令和６年２月５日（月）　14：00～15：30			
視察項目	文化財保存活用地域計画について			
対応部署名				
自治体概要	人口（令和5年12月1日）	37,132 人	面　　積	11.09 ㎢
	蟹江町は愛知県の南西部に位置し、東は名古屋市、北は島津市、あま市、西は愛西市、南は弥富市に接している。行政総面積の 11.09 平方キロメートル全域が海抜ゼロメートル地帯であり、大小の河川面積が総面積の 5 分の 1 を占める地域特性がある。 ○水郷のまち：町を二分するように流れる蟹江川、穏やかに伊勢湾へと注ぐ日光川のほか、善太川、福田川、佐屋川、大膳川という６本の河川が南北に走る。 ○歴史：蟹江は室町から戦国時代にかけて、伊勢湾に臨む要衝地とされた。蟹江城もおかれ、秀吉軍と織田・徳川連合軍による大きな戦いもあった。江戸～昭和初期には蟹江川の河口に港があり、漁業基地としても栄えた。 ○祭り：町北部にある冨吉健速神社・八劔社の祭礼である須成祭は 400 年あまりの歴史を誇る。2016 年 12 月二「山・鉾・屋台行事」も祭りの一つとして、ユネスコ無形文化遺産に登録された。			

視察内容

蟹江町では、「蟹江町文化財保存活用地域計画」が、令和５年７月２１日、文化庁文化審議会文化財分科会の答申を受けて、文化庁長官により認定されました。

○文化財保存活用地域計画とは
・「文化財保存活用地域計画」は，各市町村において取り組んでいく目標や取組の具体的な内容を記載した，当該市町村における文化財の保存・活用に関する基本的なアクション・プランです。
・「文化財保存活用地域計画」において，文化財の保存・活用に関して当該市町村が目指す将来的なビジョンや具体的な事業等の実施計画を定め，これに従って計画的に取組を進めることで，継続性・一貫性のある文化財の保存・活用が一層促進されます。また，当該市町村における文化財行政の取組の方向性を計画として対外的に明示するとともに，作成した「文化財保存活用地域計画」を広く周知し，民間団体等の様々な関係者のみならず地域住民の理解・協力を得ることにより，地域社会総がかりによる，より充実した文化財の保存・活用を図っていくことが可能となります。
（文化庁 HP より抜粋）

○目的と計画期間
「蟹江町文化財保存活用地域計画」は、町民の大切な資産である文化財を調査・整理し、課題を解決しながら指定等がされていない文化財も含めて保存・活用し、その価値と魅力を多くの町民が共有して大切に使いながら将来に継承していくことを目指している。計画期間は令和 5 年度～令和 13 年度の 9 カ年とされている。この期間は、町の総合計画等との整合性を図るため設定されている。

○計画における文化財の定義
計画において文化財とは、文化財保護法の文化財だけでなく、蟹江町の歴史や文化を形作る有形・無形のものすべてを指すとされている。そのため、指定・見してにかかわらず、文化財保護法における 6 類型に加えて、伝承地や産業等 6 類型に当てはまらないものも含めて文化財として扱うこととされている。

指定等文化財件数：27 件
未指定文化財件数：500 件

○その他現地でお伺いした事項

・すべての自治体が計画を策定している状態ではない中で、蟹江町が計画を策定するに至ったのは、須成祭が平成 28 年にユネスコ無形文化遺産に登録をされたことにより、文化財保護に対する機運が町として高まったためである。よって、行政だけでなく、町民を巻き込んで文化財保護について考え、実践していく機運を高めていくことは重要。

・策定には、3 年間の期間を要したが、コロナ禍でもあったことから、予定通りに調査が行えなかったことが大変だった。また、集めた意見を計画にどう反映させていくかも判断が難しかった。さらに、行政単独では行えないことであり、関係機関との調整には大変気を遣った。

・文化財所有者の方や、文化財の保存に尽力されている方々とのやりとりは、年に 2 回行っている補助金の説明会で協力の依頼を重ねてきた。中には補助金を受けられていないため、説明会に来られない方もいるが、その方には個別に説明へ伺った。そのため、非常に良い関係を築くことができた。

・未指定文化財には民俗行事や郷土食なども含まれている。地域として残していくべき文化財を策定にあたって 3 年間で調査を行った。ただし、方言や言い回し、昔の風景は形として残っていないとして計画の中にいれることができなかった。また、後継者がすでにいなくなっているものも計画にいれることは難しい。しかし、「以前はあったが、なくなってしまった」ということを証明するものを残していくという考え方で計画内に位置付けることも重要ではないかとされた。

・文化財保護という観点にとらわれず、若い世代にも理解を深めていくためには観光との連携は重要である。蟹江町では、須成祭の例もあることから、計画策定前から、観光も含めて他課と連携をとっていた。

・計画策定には約 2700 万円の費用がかかった。そのうち国の補助対象は約 2200 万円であり、65%である約 1430 万円は国からの補助があった。

・文化財保存活用地域計画を策定していることで、計画と合致すれば事業や修繕費なども国からの補助がある。また、そういった補助を活用することで、文化財の活用を町民も行いやすくなったという事例も紹介された。

・蟹江町長自身が文化に対して思い入れがある。

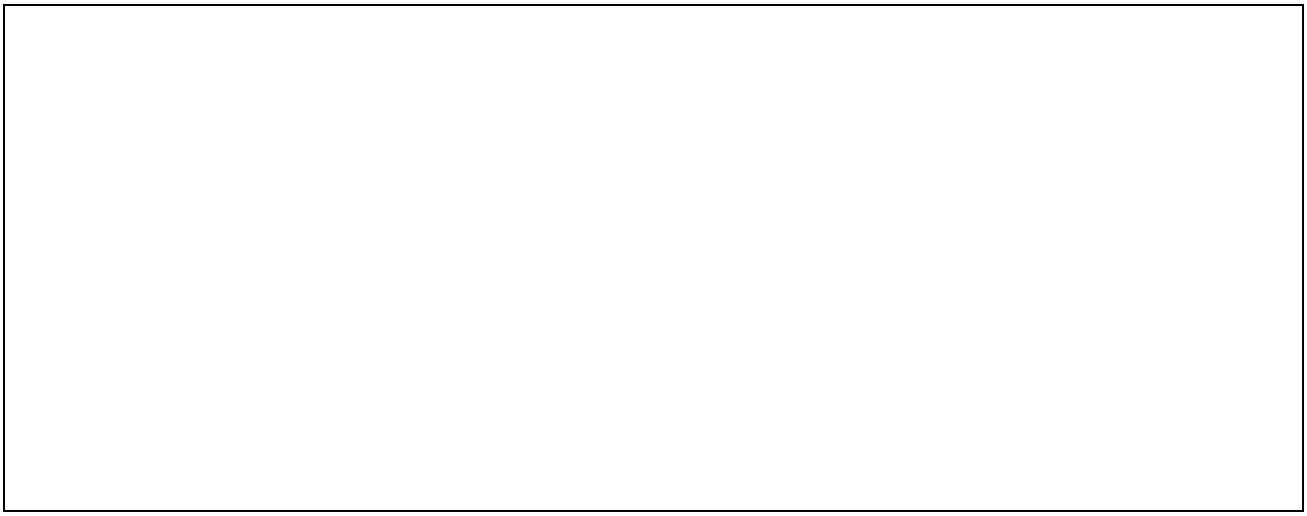

蛍 江 町 庁 舎



↑市役所のトイレに、小さい子ども用の便座が設置されており、おむつを捨てるボックスも用意されていた。視察内容とは関係がない点だが、細かい配慮をされる自治体だと感じた。

所　　感

文化財は一度失われると復活させることが極めて難しい。そんな大切なものをどのように守り、継承していくかを計画で定めることの重要性を改めて感じた。長門市では、その重要性を感じてはいるものの未だ計画策定への一歩を踏み出せていない。計画策定に時間を要することは明らかであり、その間にもなくなってしまう文化財があるかもしれないという危機感を持たなければならない。修繕費や、活用の事業費にしても計画を用いることで国からの補助を得ることが可能となるが、長門市では計画を持たないため、その多くを一般財源で扱わなければならない。計画策定には大きなエネルギーを使うことになるが、先人が築き、大切に今日まで残されてきた文化財を、今を生きる私たちがまた次の時代に繋げていく責任がある。計画を策定することのメリットは十分あるどころか、計画を策定しないと文化財の継承が難しくなっていく時代にきている。また、それは行政だけで行えることではないので、日頃から保存団体や、文化財所有者等の関係者と緊密に連携を取りつつ、市民の機運醸成も図っていかなければならない。そういった活動を続けていくことはもちろん、改めて、市には早急に計画策定への一歩を踏み出すことを強く提案していく。



(別紙)

<table>
<tr><td>視察先</td><td colspan="4">愛知県　小牧市</td></tr>
<tr><td>視察日時</td><td colspan="4">令和６年２月６日（火）　９：00～10：30</td></tr>
<tr><td>視察項目</td><td colspan="4">窓口サービスについて</td></tr>
<tr><td>対応部署名</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td rowspan="4">自治体概要</td><td>人口（令和5年12月1日）</td><td>149,884 人</td><td>面　　積</td><td>62.81 ㎢</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4">小牧市は、名古屋の北、約 15km に位置する人口約 15 万人の名古屋大都市圏の中核をなす都市。戦国時代には、織田信長が小牧山に城を築いて居城を清須から移して城下町をひらき、小牧・長久手の合戦の差異には、羽柴秀吉と徳川家康が天下の覇権を争った地として歴史に名を残している。現在は、名神高速道路、東名高速道路、中央自動車道の 3 大ハイウェイや名古屋高速道路、また県営名古屋空港を有する立地条件に恵まれ、内陸工業都市として発展している。</td></tr>
<tr><td colspan="5">視察内容</td></tr>
</table>



〇おくやみコーナー
・おくやみコーナーは、亡くなられた方に関する市役所への届け出が必要となる手続きについて、ご遺族の方が窓口を移動することなく、一つの場所で手続きが済むよう開設された。また、そこではお客様シートを記入することで、各種届出書に記載する手間を省くことが出来る。
・おくやみコーナーは、令和元年に議員から質問があり、約１年半検討を重ね実現した。

・1 カ所で職員が入れ替わるリレー方式で対応を行っていて、遺族に寄り添うことを大切にしている。
・おくやみコーナーの周知については、死亡届を渡すときにおくやみハンドブックを渡すことを徹底し、葬儀会社とも連携をとっている。
・おくやみコーナーは一日 5 枠の予約制を敷いている。利用率は約 55%だが、予約が取りづらいときもあるため、稼働率はかなり高い水準となっている。
・利用者からは、手続きがスムーズで、丁寧に対応してもらえて助かったという声がある。



〇窓口業務の民間委託
・窓口業務の一部を、平成 18 年から民間に委託している。
・個人情報等、漏らしてはならない重要な事項が多くあるため、委託業者が行う業務と、市職員が行う業務については線引きをしっかりしている。また、毎月業者と綿密な打ち合わせを行っている。これまでに情報漏洩などのトラブルは起こっていない。
・民間委託のメリットとして、職員の負担軽減や、数年で異動する職員ではなく一定の水準の方が業務に携わるため、安定して業務を行っていけること等が挙げられる。
・業者の選定にあたってはプロポーザルで決めており、入札によるただ安価であればいいという点ではなく、質を重要視している。

・実際に、窓口サービスを見学させていただいたが、証明書を取りに来られた市民の方が、手続きを開始してから帰られるまではあっという間で、そのスピードに驚いた。





○通訳者の設置
小牧市では多くの外国人の方が住まわれているため、通訳者を常設している。



↑キッズコーナーの設置は珍しくないが、授乳室がちゃんとある点で、配慮があると感じた。

所　　感

窓口業務において重要なこととして、市民がどう感じるかを大切にされていると感じた。おくやみコーナー利用者の声でもあったように、悲しくふさぎ込んでしまいそうな時こそ、寄り添うことが大事であり、そのことで少しでも遺族の心が軽くなれば、それほど良いことはないと感じる。また、証明書発行などの窓口サービスにしても、待ち時間が短いということは市民にとって大きなメリットであると感じた。情報漏洩などの観点から、民間に委託することが真に望ましいかどうかは研究していく必要があるが、いずれにしても質の担保は最重要事項である。「市役所は待たされる所」というイメージをすぐに払拭することは難しいと感じるが、少しずつでも解消していくよう努力する必要がある。

